



日本-インドネシア国交樹立 60 周年記念

森林ビジネスワークショップ

コミュニティベースのエコ製品の振興:

森林管理ユニット(FMU)との協働によるエコ製品のマーケティングと投資に向けて

2018 年 12 月 4 日 (9:30-17:00)

東京:(国際機関日本アセアンセンターにて)



インドネシアは世界有数の熱帯林を有する国の一つで、森林周辺のコミュニティの生活水準を引き上げ、国家開発に多大な貢献に寄与する森林資源と環境を有しています。森林資源は、多くの役割を持っています。経済的には、森林は、貴重な木材、その他、非木材林産物(たとえば、籐、ハチミツ、樹脂、沈香、樹液、甘味料、油脂、調味料、香料・化粧品、コーヒー、果実、タケ、ゴム、染料、燃料、その他植物油、医薬品など)供給源となります。一方、環境的には、森林は炭素を蓄積し、土壌の侵食を防ぎ、たとえば人類の健康、レクリエーション、観光など広く社会に寄与します。

現在、2万5千の村落が森林地域内やその周辺に存在し、いまだ森林資源に依存していると推定されています。インドネシアは、以前の、「木材ベースの森林管理」から、「コミュニティベースの開発に寄与する生態系アプローチ(資源ベースの森林管理)」に、森林管理政策のパラダイム転換をしました。これにより、インドネシアの森林管理システムが抜本的に変化してきております。

政府のプログラムを通じて、森林管理において森林の周辺に暮らすコミュニティを巻き込むことが重要であるとの認識が高まり、これにより、森林の持続性を維持し、森林の状態を再生し、さらに森林周辺の生活水準やコミュニティの福祉を良くすることができるようになります。こうした理由から、環境にやさしい森林の利用を推進する努力はもっと改良すべきで、持続的コンセプトを推進するツールとして、非木材の林産物のマーケティングと投資に注目すべきであります。

インドネシア政府は、森林ガバナンスを改良し、全般的に森林のランドスケープを管理し、森林周辺のコミュニティの参加を増進するために、インドネシア全土に 600 以上の森林管理ユニット (FMU) の設定を進めて参りました。このコンセプトに準じて、FMU の開発は、森林地域の管理をビジネスアプローチで行うことができ、FUM がビジネスすなわち企業的に活動できるように制度開発が進められています。FMU の独立採算を達成するため、政府は、3 つの M 戦略を実施しています。すなわち、持続的森林管理におけるマルチ・ビジネス、マルチ・コモディティ、マルチ・ステークホルダーです。こうした理由から、FMU は、グリーン経済のポテンシャルと環境にやさしい製品を創造するために存在するといっても過言ではありません。

日本は経済界でインドネシアの重要なパートナーです。消費財、産業材とも森林の産物を活用した製品が多く見られます。FMU 管理を通じてコミュニティベースのエコ製品を使用する機会の規模が拡大でき、有望な土地ベース商品(非木材林産物)のビジネス市場の機会になると言えます。こうした文脈を背景として、森林コミュニティの生活水準をあげながら、森林地域の持続的な管理に第 3 者からと FMU 管理におけるパートナーシップを構築しグリーン投資を実現することが緊急的に求められていると言えます。

今年は、インドネシア・日本の外交関係樹立 60 周年を記念する両国の関係強化における戦略的なモメンタムとなる年です。そのため、在東京インドネシア大使館としましても、国連持続的開発目標(SDGs)の達成に寄与することを目的として、インドネシアから日本の市場へコミュニティベースのエコ製品をお勧めし、インドネシアの森林ビジネスを良くすることにつながるような、特に投資者がインドネシアの FMU を通じたコミュニティベースの森林開発に参画することにつながるようなワークショップを開催することになりました。本ワークショップが、日本におけるインドネシア製エコ製品の情報、投資ポテンシャル・機会の開拓・共有、さらに、経験・意見交換のできる重要な場となりますことを期待しております。

日時：2018年12月4日(火)9:30-17:00(受付開始午前9時)

会場：国際機関日本アセアンセンター内、アセアンホール

東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル

<http://www.asean.or.jp/ja/ajc/outline/access/>

主催：在東京インドネシア大使館、国際機関日本アセアンセンター

共催：在東京インドネシア投資振興センター(IIPC Tokyo)

後援：インドネシア国環境林業省、インドネシア環境林業省、一般社団法人日本森林技術協会(JAFTA)、公益財団法人国際緑化推進センター(JIFPRO)、株式会社ヌサンタラ総合研究所(NRI)

参加者：定員100人

民間企業、政府、業界団体、流通業者、小売業者、輸入業者他

言語：インドネシア語・日本語(逐語通訳)。発表スライドは、英語/日本語で作成。

展示：ワークショップ会場にて、インドネシアのFMU産の非木材林産物(エコ製品)を展示予定

目的：

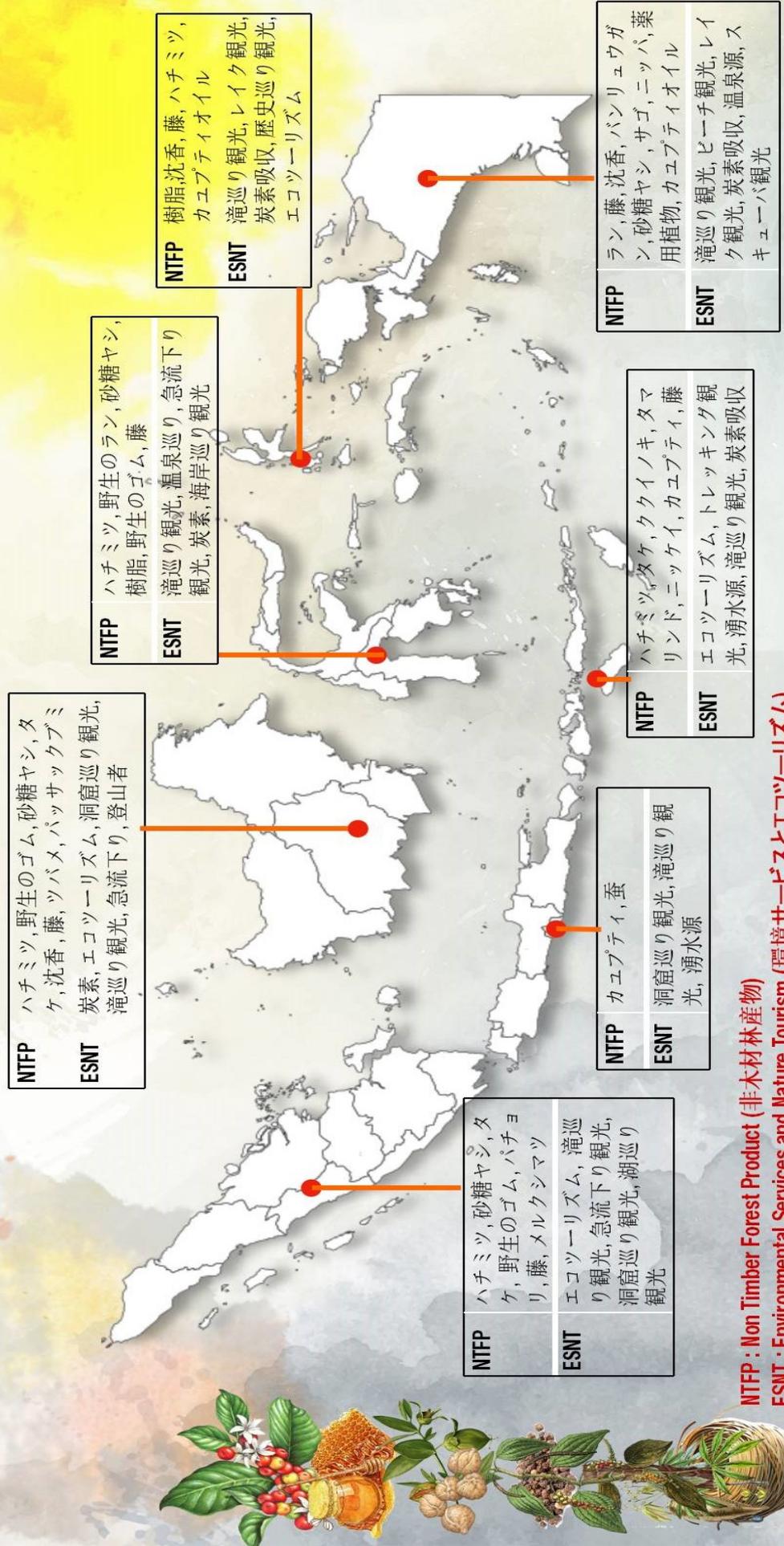
- a. インドネシアの森林の状態、最近の森林政策、SDGsに向けた開発に関する最新の情報を提供する
- b. 現場レベルの森林ガバナンスに関する政策のマイルストーンとして、インドネシアのFMUの最近の開発についてお知らせする。
- c. 人々の福利をよくすることができるインドネシアのFMU開発の協力分野のポテンシャルについて検討する。
- d. 日本の市場・産業の需要に応じたコミュニティベースのエコ製品のポテンシャルについて検討する。
- e. 日本の投資者に、ソーシャルフォレストリー、自然保護に結びつくようなインドネシアのグリーン経済やエコ製品に対する関心を高める。
- f. FUM、森林周辺のコミュニティと第三者のパートナーシップによるビジネス開発を促進する。
- g. 日本企業がインドネシアで実施してきたインドネシアのFMU開発に関連する情報を共有する。

期待する成果：

- a. FMU による森林、自然資源の持続的な管理に向けた開発体制。
- b. 森林、コミュニティベースの森林管理に対する投資の増加
- c. FMU 内、周辺コミュニティの能力、生計開発の向上
- d. 非木材林産物の開発、生産増加に向けたインドネシアの国家政策の支援

森林ランドスケープ管理ユニットに分布する資源の推定ポテンシヤル

非木材材林産物, 森林再生, 環境サービスとエコツーリズム



NTFP : Non Timber Forest Product (非木材材林産物)
 ESNT : Environmental Services and Nature Tourism (環境サービスとエコツーリズム)



日本-インドネシア国交樹立 60 周年記念

森林ビジネスワークショップ

コミュニティベースのエコ製品の振興：
森林管理ユニット(FMU)との協働による
エコ製品のマーケティングと投資に向けて
プログラム

時間	内容	発表者等
09.00 – 09.30	受付	在東京インドネシア大使館
09.30 – 10.00	<p>歓迎の挨拶</p> <p>1. 在東京インドネシア大使館: Mr. H.E. Arifin Tasrif 大使</p> <p>2. 国際機関日本アセアンセンター: 藤田正孝 事務総長</p> <p>基調講演: 森林内、周辺のエコ製品に関連するビジネスのレビュー インドネシア: 環境林業省</p>	司会: 在東京インドネシア大使館
10:00 – 10:15	コーヒーブレイク	
10:15 – 12:00	<p>発表セッション: インドネシアにおける持続的森林管理からのエコ製品のポテンシャル</p> <p>1. エコ製品に関するインドネシア投資に関する最新情報</p> <p>2. 森林管理ユニット(FMU)における研究/教育及び食料/エネルギーのための森林利用のポテンシャルとチャレンジ</p> <p>3. 森林管理ユニット(FMU)のビジネスポテンシャルの概観</p> <p>4. 南スラウェシ州の森林管理ユニット(FMU)の森林ビジネスポテンシャルとチャンス</p> <p>5. ソーシャルフォレストリー製品のビジネス開発</p>	<p>モデレーター: 日本アセアンセンター</p> <p>在東京インドネシア投資振興センター(IIPC)</p> <p>インドネシア環境林業省 森林管理地域計画・使用・設定局</p> <p>インドネシア環境林業省 生産林管理ユニット局</p> <p>南スラウェシ州知事(tbc)</p> <p>インドネシア環境林業省 社会林業・慣習林ビジネス開発局</p>

	6. コミュニティベースのエコ製品に関するインドネシア-日本間パートナーシップのポテンシャルとチャレンジ	在日インドネシアビジネス協会 (APIJ)
	7. 質疑応答	
12:00 – 13:00	休憩 (インドネシア料理の弁当を用意します)	
13:00 – 15:30	エコ製品のブランド化、エコ製品ビジネス提案開発に向けたフォーカス・グループ・ディスカッション	モデレーター: 一般社団法人 日本森林技術協会、 公益財団法人 国際緑化推進センター
	話題提供: 発展途上国における持続的森林管理のための森林ベースビジネス調査からの林産物ビジネスモデルの概観	公益財団法人 国際緑化推進センター
	FMU 産コミュニティベースのエコ製品特販とポテンシャルビジネスモデルのアイデア例	一般社団法人日本森林技術協会
	1. FMU 代表からのアイデア a. 林業公社 (tbc) b. リマウ FMU c. ジョグジャカルタ FMU d. ミナス・タフラ FMU e. ムルン・ラヤ FMU f. カプアス・フル FMU (tbc) g. その他 FMU	各 FMU 長
	2. 森林エコシステム保全に貢献するエコ製品のブランド化に関する日本企業からのアイデア	1. 仙人スパイス (tbc) 2. 株式会社ベジスタンス
	3. 質疑応答・ディスカッション	
15:30 – 15:45	総括と閉会	モデレーター、 在東京インドネシア大使館
15:45 – 17:00	ビジネスマッチング (FMU と参加者との商談・意見交換)	